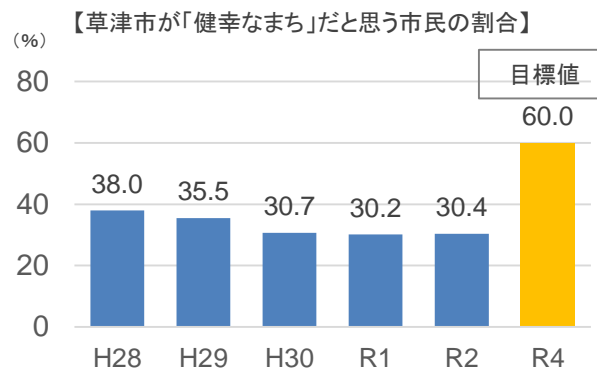


現行計画の評価

- 各事業とも概ね計画通りに進めることができ、基本方針毎の目標も新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと思われるものを除けば、**概ね達成できている**。
- 一方で、全体目標の「草津市が健幸なまちだと思う市民の割合の増加」は、当初の38.0%から低下し、**最終目標値とは大幅な開きがある**。
- ⇒**健幸都市の周知啓発が不十分**であり、また**各事業と全体目標とのつながりがわかりにくい**。



これに対して

【推進委員会での意見】

- 現行計画では「まちの健幸づくり」から始まっているが、**重要なのは「ひとの健幸づくり」**であるべき。
- 市民に健幸都市づくりを知ってほしいのであれば、**分かりやすいフレーズや言葉**を使うべき。
- 主観的な指標ではなく、**客観的な指標**とすべき。
- 市の取組をもっと**市民に周知**すべき。

【LINEアンケートでも】

- 健幸都市を目指していることを知らない:41%
- 計画を知らない、読んだことがない:88%
- 健幸都市を市民に知ってもらうために必要なこと:
 - ①SNSやポスター等を活用した周知啓発:36%
 - ②読みやすい計画書(漫画や絵本等):29%
- ※1月に市公式アカウントの友達登録者を対象に実施、回答者490名

- #### 【ワークショップでの意見】
- 地域等で活動している人だけでなく、他の市民にも自分たちの活動や行動が「健幸」につながっている**認識を深めてもらう**べき。
 - 「健幸」が市民に広がるために、感染症対策をふまえて、**集いの場や機会をつくっていく**べき。

状況の変化

1. 総合計画での位置づけ

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
健幸都市基本計画	策定(H29~R4)					
総合計画	第5次(H22~R2) 第3期基本計画(H29~R2) リーディングプロジェクトに「健幸都市づくりの推進」を掲げる			第6次(R3~R14) 将来ビジョン「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健幸創造都市 草津」を定める		

これに対して

さらに上位の概念へ位置づけ！

【市民・関係者からの意見】

- 総合計画と健幸都市基本計画の**関係を整理**する必要がある。
- 健幸都市づくり推進のための事業計画はそれぞれ定まっているため、今回の見直しでは**理念を定めて、各計画が健幸都市に向かっていくことを示す**必要がある。



2. 社会の変化

- 新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式」
- SDGsの推進、IoTやAIの活用、多様性(ダイバーシティ)の視点

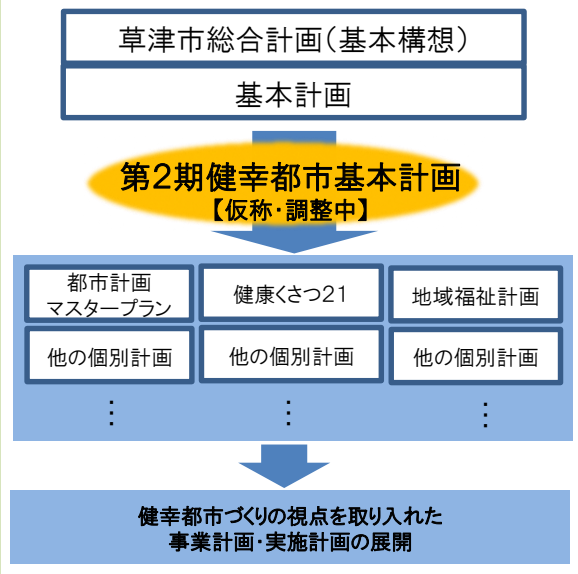
今後の健幸都市づくりに必要な視点

- ①第6次草津市総合計画に基づき、「ひとの健幸づくり」を中心にとらえながら、より一層全市的な取組を推進する。
- ②健幸都市の必要性や取組をわかりやすく伝え、市民やあらゆる主体とともに健幸都市づくりを推進する。



見直しの方向性

- ①健幸都市づくりを進めるための普遍的な理念を示すものとし、市が定め実施する基本的な計画の根幹に置き、各計画の策定や事業実施の際の指針(フィルター)としての機能を果たすものとして、「**第2期健幸都市基本計画【仮称・調整中】**」を策定する。
- ②この計画の理念実現に向けた数値目標および目標年限は、各計画及び事業において定める。



- ③右記事項を記載して、市民に健幸都市づくりをわかりやすく伝える。
- ④第6次総合計画において、健幸都市を実現していくための全市的な施策や目標・指標が具体的に定められていることを踏まえ、関連事業を列挙するのではなく、「健幸都市」像や総合計画および健康くさつ21との関係性を明確化する。
- ⑤withコロナ・afterコロナやSDGs、IoT、AI、多様性等の視点を加える。

- なぜ健幸都市の取組が必要なのか
- 草津市が考える健幸都市とは何か
- 健幸都市を実現するための全体指標
- 全体指標を達成するために必要な視点
- 市の関連計画に基づく既存政策を市民にわかりやすく示すためのパッケージ化
- 健幸都市を市民に知ってもらうための情報発信の在り方